

201119046A

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん(スキルス胃がんなど)に  
対する標準的治療の確立に関する研究

平成23年度 総括研究報告書

研究者代表者 笹子 三津留

平成24(2012)年3月

## 目 次

### I. 総括研究報告

治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん（スキルス胃がんなど）に 対する標準的治療の確立に関する研究	-----	1
笹子 三津留		

II. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	24
--------------------	-------	----

III. 研究成果の刊行物・別刷	-----	29
------------------	-------	----

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）  
総括研究報告書

治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん（スキルス胃がんなど）に対する  
標準的治療の確立に関する研究

研究代表者 笹子 三津留 兵庫医科大学外科 主任教授

腹腔鏡検査を含めた臨床ステージングで遠隔転移が無く、完全切除可能と考えられる大型3型・4型胃がんに対して、D2手術およびTS-1による術後補助化学療法1年投与を対照とし、試験治療であるTS-1+CDDP療法2コース後に同様な手術と補助化学療法を施行する新規治療の優越性を検定するランダム化比較試験を実施している。参加施設の増加で登録ペースが速まり、本年度は昨年度の倍以上の77例を登録した。また、昨年度9月にプロトコルに従って第1回目の中間解析を実施したが、JCOGの効果・安全性評価委員会は試験の継続を指示した。残り78例となり、本年度中の登録終了は可能と考えられる。

研究分担者

井上 暁	東京都立墨東病院外科 部長	寺島 雅典	静岡県立静岡がんセンター 一胃外科 部長
高木 正和	静岡県立総合病院外科 教育研修部長	岩崎 善毅	東京都立駒込病院外科 部長
谷口 弘毅	京都第2赤十字病院外科 部長	円谷 彰	神奈川県立がんセンター 消化器外科 部長
山上 裕機	和歌山県立医科大学第2 外科 教授	梨本 篤	新潟県立がんセンター新 潟病院外科 臨床部長
福島 紀雅	山形県立中央病院外科 医長	吉田 和弘	岐阜大学大学院腫瘍制御 学講座腫瘍外科学分野 教授
土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研 究科消化器外科学 教 授	稲木 紀幸	石川県立中央病院消化器 外科 医長
加治 正英	富山県立中央病院外科 部長	稲田 高男	栃木県立がんセンター外 科・臨床検査部 臨床試 験管理部長
河内 保之	長岡中央総合病院外科 部長	井上 健太郎	関西医科大学外科学講座 助教
伊藤 誠二	愛知県がんセンター中央 病院外科 医長	浅生 義人	天理よろづ相談所病院腹 部一般外科 医員、手術 部副部長
畑 啓昭	独立行政法人国立病院機 構京都医療センター外科 医師		



黒田 大介 神戸大学大学院医学研究  
科食道胃腸外科 准教授  
西岡 豊 高知県・高知市病院企業  
団立高知医療センター消  
化器外科・一般外科 地  
域医療センター長

## A. 研究目的

全体では70%近い治癒率を達成した胃癌において、依然10%程度の5年生存率にとどまっているスキルス胃癌、あるいはそれに準ずる大きな3型胃癌の予後改善が本研究の目的である。スキルス胃癌は20代の若年者にも多く発生し、数多くの悲劇を生んできた。就労期の患者が多数を占める同疾患の予後改善の必要性は高く、その社会的な意義も極めて大きい。がん対策基本法にうたわれた75才以下のがん生存率の改善にこの研究は極めて重要である。

## B. 研究方法

【研究形式】多施設共同の第Ⅲ相ランダム化比較試験（優越性試験）：標準治療を対照としたランダム化比較試験で、プライマリーエンドポイントは全生存期間。

【研究対象】腹腔鏡検査を含めた臨床的検索で遠隔転移を伴わない（ただし洗浄細胞診陽性は可）、治癒切除可能な8cm以上の大型3型・4型胃癌症例を対象とした。術前の画像診断で食道浸潤が3cm以下であり、登録時の年齢が20歳以上75歳以下、PS0,1、十分な経口摂取ができ、諸臓器の機能が良好で、患者本人の自由意志に基づく文書による同意を得ていること。

【症例登録とランダム割付】腹腔鏡検査の結果を含めて適格性を満たし、同意が得られた患者をJCOGデータセンターで中央登録する。施設、肉眼型、壁深達度、

リンパ節転移程度を割付調整因子として最小化法にて割り付ける。

【治療内容】試験治療：術前TS-1(3週投与1週休薬) + CDDP(day8)による化学療法を2コース行う。治癒切除可能症例ではD2以上の郭清を伴う根治手術を行い、術後6週以内よりTS-1単独による化学療法を手術後1年を目安に実施する。対照群：割付後早期に試験群と同様な内容の手術を行い、術後は試験治療と同じTS-1単独による化学療法を1年を目安に実施する。

【解析方法】全生存期間を用いた第1回中間解析は実施され、試験の継続が決定した。予定登録数の全数の登録終了後に第2回目の中間解析を実施する。中間解析は適切な方法で多重性を考慮して行う。最終解析は、全例登録後3年経過時点で行う。

【予定症例数】予定登録数は316例である。

【実施施設】JCOG 胃癌外科グループに所属する消化器がんの基幹施設38施設で実施された。

### （倫理面への配慮）

本第Ⅲ相試験は、臨床試験評価委員会では手術単独を対照群とした試験として承認され、開始されたが、ACTS-GC 試験（術後TS-1単独療法による補助化学療法を評価するランダム化比較試験）の結果をふまえて標準治療が変わった。倫理的観点から、それが判明した時点で即刻登録を中止した。約半年の作業でプロトコルを改訂し、改訂プロトコルは平成19年2月にJCOG効果安全性評価委員会で承認された。各参加施設では倫理審査委員会で変更点に関する審査を受け、再登録を再開した。また、ランダム化比較試験における被検者の不利益を最小限にするために適切な中間解析の設定をしている。本人に口答及び文章による説明を行い、文章による同意を得る。説明内容には、試験参加の自由、同意後の撤回

の自由、質問の自由、個人情報扱いなどが含まれ、試験の同意取得は、ヘルシンキ宣言、個人情報保護法、臨床研究に関する倫理指針の総ての要件を満たして行われる。

### C. 研究結果

本試験は 2005 年に手術単独と術前化学療法＋手術を比較する試験として開始されたが、2006 年に我が国の 1000 例を超す大規模試験で術後補助化学療法の有用性が証明され、我が国のステージ 2 以上の進行胃がんに対する標準治療は D2 手術＋術後 TS-1 の 1 年間投与に変更となった。この影響で試験の登録を一時中止して、両群ともに術後補助化学療法を加えた内容に治療を変更して 2007 年に再開した。2011 年 3 月末までに 155 例を登録した。23 年度は登録がのび前年度の倍以上の 77 例が登録され、2012 年 3 月末で 252 例を登録している。2011 年 9 月に行われた第 1 回中間解析の結果は試験の効果・安全性評価委員会により審査され、試験の継続が許可された。これまでに手術合併症による死亡はなく、順調に試験は進行している。

### D. 考察

治癒切除可能進行胃がんに対する標準治療は 3 極化しており、米国では治癒切除後に術後放射線化学療法、欧州では術前術後補助化学療法、我が国は治癒切除後 (D2) に術後化学療法単独となっている。術前化学療法は高いコンプライアンスが特徴で、微小転移のコントロールに期待が寄せられている。一方で無効症例での手術の遅れ、臨床的ステージングの間違いにより必ず一定頻度でその様な治療が不要な患者にまで負担をかけることなどの問題もある。また、我が国では術

後補助化学療法単独でもかなり良好な治療成績を得ること、欧米に比して症例数が 5 倍以上多く、進行胃がんの全例に入院治療を要する術前化学療法を行う社会的な負担(医療経済)および入退院マネジメントの煩雑さから、現時点では広く進行胃がんを対象とするには時期尚早と考えられている。本試験でかかる治療の有効性が明確となれば、ステージ 3 胃がんでもより予後の良い対象にも術前化学療法を適応しようとする流れが予想できる。一方で、現在、進行再発胃がん症例を対象に、TS-1 に Oxaliplatin を併用する治療が現在の標準である TS-1+CDDP に対して非劣性であるかどうかの試験が進行中であり、それが証明されれば外来での術前化学療法が可能となることも考えられる。

### E. 結論

予後不良な大型 3 型・4 型胃がんに対して TS-1+CDDP による術前化学療法を 2 コース行う治療は安全に施行でき、今後の生存解析の結果が注目される。

### F. 健康危険情報

現在まで登録された症例では該当なし。

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

- (1) Y. Kurokawa, M. Sasako, T. Sano, T. Shibata, S. Ito, A. Nashimoto, A. Kurita and T. Kinoshita, for the Japan Clinical Oncology Group: Functional outcomes after extended surgery for gastric cancer. British Journal of Surgery, 2011; 98: 239-245.
- (2) D. Takahari, T. Hamaguchi, K. Yoshimura, H. Katai, S. Ito, N. Fuse,

- T. Kinoshita, H. Yasui, M. Terashima, M. Goto, N. Tanigawa, K. Shirao, T. Sano, M. Sasako: Feasibility study of adjuvant chemotherapy with S-1 plus cisplatin for gastric cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 2011; 67(6): 1423-1428.
- (3) I. Miyashiro, H. Furukawa, M. Sasako, S. Yamamoto, A. Nashimoto, T. Nakajima, T. Kinoshita, O. Kobayashi, K. Arai, the Gastric Cancer Surgical Study Group in the Japan Clinical Oncology Group: Randomized clinical trial of adjuvant chemotherapy with intraperitoneal and intravenous cisplatin followed by oral fluorouracil (UFT) in serosa-positive gastric cancer versus curative resection alone: final results of the Japan Clinical Oncology Group trial JCOG9206-2. *Gastric Cancer*, 2011; 14(3): 212-218.
- (4) M. Sasako, S. Sakuramoto, H. Katai, T. Kinoshita, H. Furukawa, T. Yamaguchi, A. Nashimoto, M. Fujii, T. Nakajima and Y. Ohashi: Five-Year Outcomes of a Randomized Phase III Trial Comparing Adjuvant Chemotherapy With S-1 Versus Surgery Alone in Stage II or III Gastric Cancer. *Journal of Clinical Oncology*, 2011; 29(33): 4387-4393.
- (5) Fujiwara Y, Takiguchi S, Nakajima K, Miyata H, Yamasaki M, Kurokawa Y, Mori M, Doki Y. Intraperitoneal docetaxel combined with S-1 for advanced gastric cancer with peritoneal dissemination. *J Surg Oncol*, 2011; 105: 38-42.
- (6) Nakamura M, Hosoya Y, Umeshita K, Yano M, Doki Y, Miyashiro I, Dannoue H, Mori M, Kishi K, Lefor AT. Postoperative quality of life: development and validation of the "Dysfunction After Upper Gastrointestinal Surgery" scoring system. *J Am Coll Surg*. 2011; 213(4): 508-14.
- (7) Moon JH, Fujiwara Y, Nakamura Y, Okada K, Hanada H, Sakakura C, Takiguchi S, Nakajima K, Miyata H, Yamasaki M, Kurokawa Y, Mori M, Doki Y. REGIV as a potential biomarker for peritoneal dissemination in gastric adenocarcinoma. *J Surg Oncol*, 2011; 105: 189-194.
- (8) Fujiwara Y, Takiguchi S, Nakajima K, Miyata H, Yamasaki M, Kurokawa Y, Okada K, Mori M, Doki Y. Neoadjuvant intraperitoneal and systemic chemotherapy for gastric cancer patients with peritoneal dissemination. *Ann Surg Oncol*. 2011; 18(13): 3726-31.
- (9) Fujita J, Kurokawa Y, Sugimoto T, Miyashiro I, Iijima S, Kimura Y, Takiguchi S, Fujiwara Y, Mori M, Doki Y. Survival benefit of bursectomy in patients with resectable gastric cancer: interim analysis results of a randomized controlled trial. *Gastric Cancer*, 2011, in press.
- (10) Makino T, Fujiwara Y, Takiguchi S, Tsuboyama T, Kim T, Nushijima Y, Yamasaki M, Miyata H, Nakajima K, Mori M, Doki Y. Preoperative T staging of gastric cancer by multi-detector row computed tomography. *Surgery*, 2011; 149(5): 672-9.
- (11) Tamura S, Fujitani K, Kimura Y,

- Tsuji T, Matsuyama J, Iijima S, Imamura H, Inoue K, Kobayashi K, Kurokawa Y, Furukawa H. Phase II Feasibility Study of Adjuvant S-1 plus Docetaxel for Stage III Gastric Cancer Patients after Curative D2 Gastrectomy. *Oncology*, 2011, 80(5-6): 296-300.
- (12) K. Inoue, Y. Nakane, M. Kogire, K. Fujitani, Y. Kimura, H. Imamura, S. Tamura, S. Okano, A.H. Kwon, Y. Kurokawa, T. Shimokawa, H. Takiuchi, T. Tsujinaka, H. Furukawa: Phase II trial of preoperative S-1 plus cisplatin followed by surgery for initially unresectable locally advanced gastric cancer. *Eur J Surg Oncol*, 2012, 38: 143-149.
- (13) Yoshida K, Yamaguchi K, Okumura N, Osada S, Takahashi T, Tanaka Y, Tanabe K, Suzuki T. The roles of surgical oncologists in the new era - minimally invasive surgery for early gastric cancer and adjuvant surgery for metastatic gastric cancer. *Pathobiology*: 2011; 78: 343-352.
- (14) Masaki Nakamura, Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Teiji Naka, Toshiyasu Ojima, Takeshi Iida, Masahiro Katsuda, Toshiaki Tsuji, Keiji Hayata, Shuuichi Mastumura and Hiroki Yamaue: Lower mediastinal lymph node metastasis is an independent survival factor of Siewert type II and III adenocarcinomas in the gastroesophageal junction. *Am Surg*. 2012, in press.
- (15) Yamada T, Hayashi T, Cho H, Yoshikawa T, Taniguchi H, Fukushima R, Tsuburaya A: Usefulness of enhanced recovery after surgery protocol as compared with conventional perioperative care in gastric surgery. *Gastric cancer*, 2011; 15(1): 34-41.
- (16) Aoyama, T, Yoshikawa T, Watanabe T, Hayashi T, Ogata T, Cho H, Tsuburaya A: Macroscopic tumor size as an independent prognostic factor for stage II/III gastric cancer patients who underwent D2 gastrectomy followed by adjuvant chemotherapy with S-1. *Gastric Cancer*, 2011; 14(3): 274-8.
- (17) Aoyama T, Yoshikawa T, Watanabe T, Hayashi T, Ogata T, Cho H, Tsuburaya A: Survival and prognosticators of gastric cancer that recurs after adjuvant chemotherapy with S-1. *Gastric cancer*; 2011; 14(2): 150-4.
- (18) Miki Y, Tokunaga M, Bando E, Tanizawa Y, Kawamura T, Terashima M: Evaluation of Postoperative Pancreatic Fistula After Total Gastrectomy with D2 Lymphadenectomy by ISGPF Classification. *Journal of Gastrointestinal Surgery*, 2011; 15(11): 1969-1976.
- (19) Sugisawa N, Tokunaga M, Tanizawa Y, Bando E, Kawamura T, Terashima M: Intra-abdominal infectious complications following gastrectomy in patients with excessive visceral fat. *Gastric Cancer*. 2011, in press.
- (20) 黒川幸典、土岐祐一郎、笹子三津留：胃癌の外科治療に関する臨床試験。 *臨床外科*、2011; 66(5): 582-586.
- (21) 堀高明、小澤りえ、花山寛之、山下英孝、海辺展明、大嶋勉、竹村雅至、菊池正二郎、笹子三津留：胃癌における術後補助化学療法の現状と今後の展望。 *癌と化学療法*、2011; 38(9): 1390-1395.

- (22) 菊池正二郎、笹子三津留: CLASSIC 試験結果とその解釈. 腫瘍内科, 2011; 8(4): 368-373.
- (23) 梨本篤: 癌の治療成績—日本と欧米の相違—. 胃癌の治療成績 外科治療. 2011; 104(2):120-126.
- (24) 梨本篤: わが国における Stage IV 胃癌の治療方針; 全国登録データからみた現況 消化器外科, 2011; 34(5): 537-544.
- (25) 藪崎裕、梨本篤: 脾温存胃全摘術におけるリンパ節郭清手技—当院における工夫—. 外科治療, 2011; 105(6): 572-579.
- (26) 岩崎善毅: 術前補助化学療法. うまく続ける消化器がん 化学療法、東京: 羊土社, 2011, 85-89.
- (27) 吉田和弘, 山口和也, 高橋孝夫. 消化管がんの術前・術後補助化学療法の新展開. 日本医師会雑誌 2011; 140: 1691-1695.
- (28) 山口和也, 吉田和弘, 奥村直樹. 胃癌に対する胃全摘術(鏡視下). 手術 2011; 65(6): 779-784.
- (29) 高橋孝夫, 吉田和弘. 消化器癌の個別化医療—分子標的治療薬を中心に—. 外科, 2011; 73(10): 1027-1032.
- (30) 高橋孝夫, 吉田和弘, 山口和也, 奥村直樹. 胃がんにおけるバイオマーカー. 消化器外科, 2011; 34: 1897-1903.
- (31) 寺島雅典、坂東悦郎、永正則、谷澤豊、川村泰一、近藤潤也、杉沢徳彦、瀧雄介、大島令子、茂木陽子、三木祐一朗、山川雄士、幕内梨恵、絹笠祐輔、金本秀行、上坂克彦、安井博史、朴成和: Stage IV 胃癌における外科治療の有用性 腹腔洗浄細胞診陽性例に対する肉眼的治癒切除の意義. 癌の臨床、2011; 56(4): 291-295.
- (32) 坂東悦郎、近藤潤也、徳永正則、

- 谷澤豊、川村泰一、寺島雅典、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦: 消化器病診療ガイドラインと日常臨床 胃癌手術症例においてガイドラインどおりの治療遂行がどのくらい可能か?—活用の実際と問題点・発展性—. 消化器内科、2011; 52(5): 459-466.
- (33) 小寺泰弘、藤原道隆、伊藤誠二、大橋紀文、中尾昭公: Stage IV 胃癌における胃切除後の化学療法 「昔ながらの戦略」の実力は? 癌の臨床, 2011; 56(4): 283-289.

## 2. 学会発表

- (1) Nashimoto A: Clinical and survival data after surgery. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (2) Nashimoto A, Sasako M: Pre-planned subgroup analysis given S-1 adjuvant chemotherapy for resected gastric cancer from ACTS-GC. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (3) Nashimoto A: New Japanese classification of gastric carcinoma—points of major revision—. The international association of surgeons, gastroenterologists and oncologists, continuing medical education course in Beijing (IASGO CME course in Beijing). 2011.3. Beijing.
- (4) Nashimoto A: The latest gastric cancer research and clinical therapy in Japan—Current surgery focus of gastric cancer in Japan—. The international forum of surgical treatment in gastrointestinal cancer. 2011.5. Beijing.
- (5) Nashimoto A: Role of adjuvant and



neoadjuvant therapy. International Surgical Week (ISW2011) 2011.8. Yokohama.

(6) Nashimoto A: Present state of gastric cancer chemotherapy in Japan. 65th Congress of the Association of Polish Surgeons, Lodz, Poland, 2011.9.15.

(7) Nashimoto A: Present state of gastric cancer chemotherapy in Japan. The 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists. 2011/11. Tokyo.

(8) Sasako M, Nashimoto A: Five -year results of S-1 adjuvant chemotherapy study (ACTS-GC). 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(9) Miyashiro I, Sasako M, Nashimoto A: Final results of the multicenter trial JCOG0302: High false negative rate and less-accurate intraoperative histological examination using one plane as serious problem for clinical application. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(10) Kinjyo T, Nashimoto A: The significance of splenectomy for advanced gastric cancer located in the upper portion of the stomach. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(11) Hashimoto I, Nashimoto A: Analysis of postoperative pancreatitis depending on surgical procedures using CTCAE version 4.0. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(12) Enomoto T, Nashimoto A: Evaluation of palliative total gastrectomy for patients with highly advanced gastric

cancer. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(13) K. Inoue, Y. Nakane, M, T. Michiura, M. Yamada, H. Mukaide, J. Fukui, H. Miki, T. Kanbara, S. Kim, K. Nakai, M. Kon: Laparoscopic overlap Roux-en-Y reconstruction in distal gastrectomy. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(14) Ueda T, Yasui W, Yoshida K, Sasaki H, Nomura S, Seto Y, Kaminishi M, Calin G, Croce C, Volinia S, Okumura H, Shimizu M, Taccioli C, Rossi S, Alder H, Liu C, Oue N.: Unique microrna signatures associated with progression and prognosis of gastric cancer. 9th International Gastric Cancer Congress, 2011.4. Seoul.

(15) Yoshida K, Yamaguchi K, Okumura N, Takahashi T, Osada S : Standard total gastrectomy with D2 lymphnode dissection in new Japanese guide line. 9th International Gastric Cancer Congress, 2011.4. Seoul.

(16) Yoshida K, Yamaguchi K, Osada S, Takahashi T, Tanaka Y . Neoadjuvant and adjuvant chemotherapy for gastric cancer. 65th Congress of the Association of Polish Surgeons. 2011.9. Lodz, Poland.

(17) Yoshida K, Yamaguchi K, Okumura N, Takahashi T, Osada S. Standard procedure of complete laparoscopic distal gastrectomy with D2 lymphnode dissection for gastric carcinoma. World Congress of the International Association of surgeons, Gastroenterologists and Oncologists.

2011.11. Tokyo.

(18) Yoshida K. Current status and controversials of gastric cancer surgery in the era of minimally invasive surgery. 2011 China GI Cancer Workshop. 2011.11. Shanghai.

(19) Yoshida K. Panel discussion. Neo-adjuvant chemotherapy of gastric cancer: view from the East. 2011 China GI Cancer Workshop. 2011.11. Shanghai.

(20) Yamaguchi K, Ikawa A, Tanaka Y, Okumura N, Nonaka K, Takahashi T, Osada S, Yoshida K.: Evaluation of surgical treatment for advanced gastric cancer. 9th International Gastric Cancer Congress, 2011.4. Seoul.

(21) Ikawa A, Okumura N, Takahashi T, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K.: Surgical outcomes after incomplete endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(22) Okumura N, Ikawa A, Yawata K, Takahashi T, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Clinicopathological features of advanced gastric cancer with positive peritoneal washing cytology. 9th International Gastric Cancer Congress, 2011, Korea, April 20-23.

(23) Okumura N, Saito S, Ikawa A, Takahashi T, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Treatment results with S-1 based chemotherapy for advanced gastric cancer. Poster Exhibition. International Surgical Week/ISW 2011. Yokohama, Japan

(24) Masaki Nakamura, Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Teiji

Naka, Toshiyasu Ojima, Takeshi Iida, Masahiro Katsuda, Toshiaki Tsuji, Keiji Hayata, Shuichi Matsumura, Hiroki Yamaue : Clinical significance of lower mediastinal lymph node dissection by left thoracoabdominal approach for adenocarcinoma of the gastroesophageal junction. 9<sup>th</sup> International gastric cancer congress. 2011.4. Seoul.

(25) Shuichi Matsumura, Katsunari Takifuji, Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Masaki Nakamura, Toshiyasu Ojima, Takeshi Iida, Masahiro, Katsuda, Toshiaki Tsuji, Keiji Hayata, Hiroki Yamaue: The utility of partial gastric resection by intragastric approach guided by The utility of partial gastric resection by intragastric approach guided by endoscopy for gastric gastrointestinal stromal tumors around the esophagogastric junction. 9th International Gastric Cancer Association. 2011.4. Seoul.

(26) Takeshi Iida, Makoto Iwahashi, Masahiro Katsuda, Koichiro Ishida, Mikihiro Nakamori, Masaki Nakamura, Teiji Naka, Toshiyasu Ojima, Kentaro Ueda, Keiji Hayata, Hiroki Yamaue : Tumor-infiltrating CD4+ Th17 cells produce IL-17 in tumor microenvironment and promote tumor progression in human gastric cancer. 9th International Gastric Cancer Association. 2011.4. Seoul.

(27) Toshiyasu Ojima, Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Masaki Nakamura, Masahiro Katsuda, Takeshi Iida, Toshiaki Tsuji, Keiji Hayata, Shuichi Matsumura, and Hiroki Yamaue: Influence of Overweight on Gastric Cancer Patients after Curative

Gastrectomy. 9th International Gastric Cancer Association. 2011.4. Seoul.

(28) Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Masaki Nakamura, Toshiyasu Ojima, Takeshi Iida, Masahiro Katsuda, Keiji Hayata, Toshiaki Tsuji, Kentaro Ueda, Hiroki Yamaue: Surgery after S-1 plus cisplatin for advanced gastric cancer with paraaortic node involvement -Does it have benefits? 9th International Gastric Cancer Association. 2011.4. Seoul.

(29) Toshiyasu Ojima, Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Masaki Nakamura, Katsunari Takifuji, Masahiro Katsuda, Takeshi Iida, Toshiaki Tsuji, Keiji Hayata, Hiroki Yamaue: The impact of abdominal shape index of patients on laparoscopy -assisted distal gastrectomy for early gastric cancer. International Surgical Week ISW2011. 2011.8. Tokyo.

(30) Takeshi Iida, Makoto Iwahashi, Mikihiro Nakamori, Masaki Nakamura, Toshiyasu Ojima, Masahiro Katsuda, Toshiaki Tsuji, Keiji Hayata, Shuichi Matsumura, Hiroki Yamaue: Prophylactic drain is not necessary for gastric cancer after distal gastrectomy. International Surgical Week ISW2011. 2011.8. Tokyo.

(31) Nomura T, Fukushima N., Kamio Y, Iizawa H.: D2 gastrectomy followed by adjuvant chemotherapy for gastric cancer patients with positive peritoneal washing cytology. 9th International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.

(32) M. Terashima, E. Bando, M. Tokunaga, Y. Tanizawa, T. Kawamura, J. Kondo, Y. Kinugasa, H. Kanemoto, K. Uesaka.: Efficacy of adjuvant chemotherapy with S-1 in patients with positive peritoneal cytology (CY1) who underwent R1 surgery.

2011 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2011.1. San Francisco, USA.

(33) N. Oshima, M. Tokunaga, Y. Tanizawa, E. Bando, T. Kawamura, J. Kondo, Y. Kinugasa, H. Kanemoto, K. Uesaka, M. Terashima: Prognostic value of duodenal invasion length in patients with gastric cancer. 2011 Gastrointestinal Cancers Symposium. 2011.1. San Francisco, USA.

(34) Junya Kondo, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Yusuke Kinugasa, Hideyuki Kanemoto, Katsuhiko Uesaka, Masanori Terashima: Staging laparoscopy for patients with advanced gastric cancer. SAGES 2011. 2011.3. San Antonio, TX, USA.

(35) Yuichiro Miki, Masanori Tokunaga, Taiichi Kawamura, Etsuro Bando, Yutaka Tanizawa, Yusuke Kinugasa, Hideyuki Kanemoto, Katsuhiko Uesaka, Masanori Terashima: Laparoscopic surgery for synchronous gastric and colorectal cancer: Report of three cases. SAGES 2011. 2011.3. San Antonio, TX, USA.

(36) Masanori Terashima, Masanori Tokunaga, Etsuro Bando, Yutaka Tanizawa, Taiichi Kawamura, Junya Kondo, Yusuke Kinugasa, Hideyuki Kanemoto, Katsuhiko Uesaka, Kohei Takizawa, Masaki Tanaka: A new hybrid technology of laparoscopic assisted endoscopic full thickness resection for intraluminal type SMT of the stomach. SAGES 2011. 2011.3. San Antonio, TX, USA.

(37) M Tokunaga, J Kondo, Y Miki, Y Tanizawa, E Bando, T Kawamura, Y Kinugasa, H Kanemoto, K Uesaka, M Terashima: Early surgical outcomes

- following laparoscopy assisted gastrectomy before and after standardization. SAGES 2011. 2011.3. San Antonio, TX, USA.
- (38) M. Tokunaga, Y. Tanizawa, E. Bando, T. Kawamura, M. Terashima: Incidence and severity of postoperative intra-abdominal complications following laparoscopy assisted distal gastrectomy by the use of Clavien-Dindo classification. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (39) N. Sugisawa, N. Oshima, R. Makuuchi, Y. Miki, Y. Yamakawa, E. Bando, M. Terashima, M. Tokunaga, Y. Tanizawa, T. Kawamura, J. Kondo, Y. Taki and Y. Motegi: Clinical significance of combined resection of the colon in patients with advanced gastric cancer. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (40) E. Bando, J. Kondo, M. Tokunaga, Y. Tanizawa, T. Kawamura, Y. Kinugasa, H. Kanemoto, K. Uesaka, M. Terashima: Evaluation of the 7th edition of the TNM classification of gastric cancer -Comparison between clinical and pathologic stage. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (41) Y. Taki, M. Tokunaga, E. Bando, Y. Tanizawa, T. Kawamura, Y. Kinugasa, K. Uesaka and M. Terashima: Comparison of oral intake periods between gastrectomy and gastro-jejunal bypass for incurable malignant gastric outlet obstruction. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (42) M. Terashima: Extended surgery for advanced gastric cancer. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (43) Y. Miki, M. Tokunaga, E. Bando, Y. Tanizawa, T. Kawamura, Y. Kinugasa, K. Uesaka, M. Terashima: Perioperative risk assessment for gastrectomy by surgical Apgar score. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (44) R. Makuuchi, E. Bando, J. Kondo, M. Tokunaga, Y. Tanizawa, T. Kawamura, K. Uesaka, H. Kanemoto, M. Terashima: Clinical significance of preoperative assessment in gastric cancer patients with esophageal invasion. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (45) Y. Yamakawa, Y. Tanizawa, E. Bando, T. Kawamura, M. Tokunaga, H. Ono, Y. Kinugasa, K. Uesaka, H. Kanemoto, M. Terashima: Lymph node dissection for submucosal gastric cancer following endoscopic submucosal dissection with positive vertical margin. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (46) Y. Tanizawa, E. Bando, M. Tokunaga, J. Kondo, T. Kawamura, M. Terashima: Influence of a positive proximal margin on oral intake in patients with palliative gastrectomy for far advanced gastric cancer. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (47) E. Bekku, Y. Tanizawa, M. Tokunaga, E. Bando, T. Kawamura, M. Niwakawa, M. Terashima: Gastric metastasis from adrenocortical carcinoma: A case report. 9<sup>th</sup> International Gastric Cancer Congress. 2011.4. Seoul.
- (48) M. Terashima, A. Ochiai, K. Kitada, W. Ichikawa, I. Kurahashi, S. Sakuramoto, T. Fukagawa, T. Sano,

H. Imamura, M. Sasako: Impact of human epidermal growth factor receptor (EGFR) and ERBB2 (HER2) expressions on survival in patients with stage II/III gastric cancer, enrolled in the ACTS-GC study. American Society of Clinical Oncology 2011 Annual Meeting. 2011.1. Chicago, USA.

(49) M. Terashima, M. Tokunaga, E. Bando, Y. Tanizawa, T. Kawamura, Y. Kinugasa, K. Uesaka, H. Ono: A new hybrid technology of laparoscopy assisted endoscopic full thickness resection for intraluminal type SMT of the stomach. International Surgical Week 2011. 2011.8. Yokohama.

(50) T. Yamaguchi, Y. Kinugasa, A. Shiomi, K. Moritani, H. Tomioka, S. Tsukamoto, E. Bando, M. Terashima: Risk factors of lateral pelvic lymph node metastasis in rectal cancer: based on preoperative clinicopathological factors. International Surgical Week. 2011.8. Yokohama.

(51) E. Bando, J. Kondo, M. Tokunaga, Tanizawa, T. Kawamura, H. Kanemoto, K. Uesaka, M. Terashima: Identification of risk factors of recurrence in gastric cancer patients who underwent R0 gastrectomy: recurrent mode-specific evaluation using multinomial logistic regression algorithm: based on preoperative clinicopathological factors. International Surgical Week 2011. 2011.8. Yokohama.

(52) M. Tokunaga, Y. Tanizawa, E. Bando, T. Kawamura, Y. Kinugasa, H. Kanemoto, K. Uesaka, M. Terashima: Intra-abdominal infectious complications

following laparoscopy assisted gastrectomy. International Surgical Week 2011. 2011.8. Yokohama.

(53) E. Bando, J. Kondo, M. Tokunaga, Tanizawa, T. Kawamura, H. Kanemoto, K. Uesaka, M. Terashima: Clinicopathologic analysis of extranodal metastases in patients with gastric cancer. International Surgical Week 2011. 2011.8. Yokohama.

(54) Etsuro Bando, Junya Kondo, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Taiichi Kawamura, Yuusuke Kinugasa, Hideyuki Kanemoto, Katsuhiko Uesaka, Masanori Terashima: Risk factor model for detection of incurable factor in pre-operative curative intent cases with gastric cancer –Derivation from 2000 patients and validation from 526 cohort cases. 21<sup>st</sup> World Congress of International Association of Surgeon and Gastroenterologist. 2011.9. Tokyo.

(55) Etsuro Bando, Junya Kondo, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Taiichi Kawamura, Yuusuke Kinugasa, Hideyuki Kanemoto, Katsuhiko Uesaka, Masanori Terashima: Prognostic significance of lymphatic-blood vessel involvement in gastric carcinoma –Stage specific analysis. 21<sup>st</sup> World Congress of International Association of Surgeon and Gastroenterologist. 2011.9. Tokyo.

(56) Masanori Terashima, Junya Kondo, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Yuusuke Kinugasa, Hideyuki Kanemoto, Katsuhiko Uesaka: Advantages of pylorus preserving gastrectomy for early gastric cancer. 21<sup>st</sup> World Congress of International Association of Surgeon and Gastroenterologist. 2011.9. Tokyo.



- (57)梨本篤:局所進行胃癌に対する術前DCS(docetaxel+cisplatin+S-1)療法+外科切除の第2相臨床試験.第83回日本胃癌学会、2011.3、三沢.
- (58)梨本篤:胃がんの腹部傍大動脈リンパ節(No.16)郭清について.第49回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.
- (59)桜本信一、笹子三津留、梨本篤:ACTS-GC試験の5年時のフォローアップデータ.第83回日本胃癌学会、2011.3、三沢.
- (60)松木淳、梨本篤:経口摂取不能進行胃癌に対するpaclitaxel+low dose FP(5-FU+CDDP)術前化学療法の検討.第83回日本胃癌学会、2011.3、三沢.
- (61)藪崎裕、梨本篤:食道胃接合部癌Siewert type II,IIIに対する手術成績.第83回日本胃癌学会、2011.3、三沢.
- (62)藪崎裕、梨本篤:Stage IV胃癌の集学的治療における手術療法の意義.第83回日本胃癌学会、2011.3、三沢.
- (63)藪崎裕、梨本篤:食道胃接合部癌Siewert type II,IIIに対する手術成績.第66回日本消化器外科学会総会、2011.7、名古屋市.
- (64)橋本伊佐也、梨本篤:分割DCS療法にて腹部病変のpCRが得られた、傍大動脈リンパ節転移を伴う進行胃癌の一例.第66回日本消化器外科学会総会、2011.7、名古屋市.
- (65)藪崎裕、梨本篤:高度進行胃癌に対する集学的治療における手術療法の意義.第49回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.
- (66)松木淳、梨本篤:高度進行胃癌に対する術前DCS療法.第49回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.
- (67)福本将人、梨本篤:幽門狭窄を呈した胃癌手術症例の臨床病理学的検討.第73回日本臨床外科学会総会、2011.11、東京.
- (68)福本将人、梨本篤:分割DCS療法による術前化学療法が著効した進行胃がんの1例.第73回日本臨床外科学会総会、2011.11、東京.
- (69)岩崎善毅、大橋学、岩永知大、大日向玲紀、高橋慶一、山口達郎、松本寛、中野大輔:高度進行胃癌に対する術前化学療法.第36回日本外科系連合学会、2011.6、浦安.
- (70)岩崎善毅、大橋学、岩永知大、大日向玲紀、高橋慶一、山口達郎、松本寛、中野大輔:高度進行胃癌に対する術前化学療法.第66回日本消化器外科学会、2011.7、名古屋.
- (71)佐藤優、河内保之:高度進行胃癌に対する術前分割DCS療法の治療成績.第83回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢.
- (72)河内保之:POCY1胃癌に対する術前化学療法の検討.第84回日本胃癌学会総会、2012.2、大阪.
- (73)井上健太郎、辻仲利政、中根恭司、今村博、木村豊、大島一輝、松山仁、辰巳満俊、下川敏雄、黒川幸典、權雅憲、古河洋.手術部位感染に対する危険因子の検討(胃癌に対する幽門側胃切除後の予防的抗生物質投与の必要性に関する第III試験OGSG0501付随研究)第111回日本外科学会2011、紙上開催
- (74)井上健太郎、山田正法、道浦拓、福井淳一、向出裕美、三木博和、金成泰、神原達也、中根恭司、權雅憲.腹腔鏡下幽門側胃切除におけるOverlap法でのRoux-en-Y再建の有用性.第66回日本消化器外科学会総会、2011.7、名古屋.
- (75)坂口達馬、井上健太郎、松島英之、上山庸佑、向出裕美、福井淳一、山田

正法, 道浦 拓, 中井宏治, 尾崎 岳, 中根恭司, 權 雅憲. 化学療法により腹膜転移が消失し根治手術を施行出来たが術後 1 ヶ月目に高度の腹膜再発を来した症例. 第 584 回大阪外科集談会 2011.11 大阪.

(76)道浦 拓, 井上健太郎, 福井淳一, 向出裕美, 山田正法, 中井宏治, 徳原克治, 岩本慈能, 中根恭司, 權 雅憲. 当科における幽門保存胃切除術 (PPG). 第 73 回日本臨床外科学会総会 2011.11 東京.

(77) 福井淳一, 菱川秀彦, 松島英之, 津田 匠, 向出裕美, 山田正法, 道浦拓, 徳原克治, 井上健太郎, 岩本慈能, 中根恭司, 權 雅憲. 胃 Large cell neuroendocrine carcinoma の二例と当科での胃分泌細胞癌症例の検討. 第 73 回日本臨床外科学会総会 2011.11 東京.

(78)中井宏治, 尾崎 岳, 山田正法, 福井淳一, 向出裕美, 道浦 拓, 井上健太郎, 中根恭司, 權 雅憲. 胃癌再発症例に対し 4 治化学療法にて Capecitabine+CDDP が有効であった 1 例. 第 49 回日本癌治療学会学術集会 2011.10 名古屋.

(79)山口和也, 徳丸剛久, 佐野仁哉, 今井 寿, 佐々木義之, 水井慎一郎, 井川愛子, 田中善宏, 奥村直樹, 野中健一, 高橋孝夫, 長田真二, 吉田和弘. StageIV胃癌に対する外科治療の意義. 第 111 回日本外科学会定期学術集会, 2011, 紙上開催

(80)森 龍太郎, 長田真二, 八幡和憲, 棚橋利行, 太和田昌宏, 今井 寿, 佐々木義之, 田中善宏, 奥村直樹, 野中健一, 高橋孝夫, 山口和也, 吉田和弘. 5FU 耐性胃癌細胞株における耐性のメカニズムについて. 第 111 回日本外科

学会定期学術集会, 2011, 紙上開催  
(81)山口和也, 井川愛子, 田中善宏, 奥村直樹, 野中健一, 高橋孝夫, 長田真二, 吉田和弘. 高度進行胃癌に対する化学療法後の外科的治療に関する臨床試験. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 2011.7, 名古屋.

(82)井川愛子, 今井寿, 齋藤史朗, 佐々木義之, 奥村直樹, 野中健一, 高橋孝夫, 山口和也, 長田真二, 吉田和弘. 当科における ESD 後追加切除を要した胃癌症例の検討. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 2011.7, 名古屋.

(83) 森龍太郎, 長田真二, 加藤順子, 棚橋利行, 八幡和憲, 奥村直樹, 高橋孝夫, 山口和也, 吉田和弘. 5FU と Oxaliplatin の相乗効果における FANCIJ の役割. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 2011.7, 名古屋.

(84) 八幡和憲, 長田真二, 今井寿, 佐々木義之, 齋藤史朗, 井川愛子, 田中善宏, 野中健一, 高橋孝夫, 山口和也, 二村学, 吉田和弘. Antitumor efficacy of Vandetanib for gastric cells. (胃癌細胞に対する Vandetanib の抗腫瘍効果.) 第 70 回日本癌学会学術総会, 2011.10, 名古屋.

(85) 森龍太郎, 吉田和弘, 長田真二, 棚橋利行, 八幡和憲, 加藤順子. Decreased FANCIJ caused by 5FU contributes to increased sensitivity to oxaliplatin in gastric cancer cells. (5FU と Oxaliplatin の相乗効果における FANCIJ の役割について.) 第 70 回日本癌学会学術総会, 2011.10, 名古屋.

(86) 井川愛子, 山口和也, 奥村直樹, 野中健一, 田中善宏, 名和正人, 今井寿, 佐々木義之, 齋藤史朗, 森光華澄, 長田真二, 二村学, 吉田和弘. 胃癌切除症例における EGFR, HER2 の発現

と臨床病理学的検討. 第 49 回日本癌治療学会学術集会、2011. 10、名古屋.

(87) 山口和也、櫻谷卓司、浅井竜一、徳丸剛久、太和田昌宏、今井寿、斎藤史郎、佐々木義之、井川愛子、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘. StageIV 胃癌に対する化学療法後胃切除の検証に向けて. 第 49 回日本癌治療学会学術集会、2011. 10、名古屋.

(88) 八幡和憲、長田真二、山田敦子、加藤順子、棚橋利行、今井寿、佐々木義之、斎藤史郎、井川愛子、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、山口和也、二村学、吉田和弘. 胃癌細胞に対する Vandetanib 効果のメカニズム. 第 49 回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.

(89) 斎藤史郎、櫻谷卓司、浅井竜一、徳丸剛久、太和田昌宏、今井寿、佐々木義之、井川愛子、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、山口和也、長田真二、吉田和弘. 当科の腹腔鏡下胃切除術の成績. 第 49 回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.

(90) 山口和也、浅井竜一、安福至、徳丸剛久、櫻谷卓司、太和田昌宏、今井寿、斎藤史郎、佐々木義之、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘. 幽門側胃切除術・噴門側胃切除術における膈上縁リンパ節郭清. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011. 11、東京.

(91) 斎藤史郎、今井寿、佐々木義之、田中善宏、奥村直樹、野中健一、高橋孝夫、山口和也、長田真二、吉田和弘. ステージIV胃癌の化学療法後手術における合併症の検討. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011. 11、東京.

(92) 太和田昌宏、浅井竜一、安福至、

徳丸剛久、櫻谷卓司、今井寿、斎藤史郎、佐々木義之、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、山口和也、長田真二、吉田和弘. StageIV胃癌に対する外科治療の効果. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011. 11、東京.

(93) 山口和也、櫻谷卓司、太和田昌宏、斎藤史郎、田中善宏、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘. 高度進行胃癌に対する化学療法後の外科的治療の検討. 第 24 回日本バイオセラピー学会学術集会総会、2011.12、和歌山.

(94) 森龍太郎、長田真二、山田敦子、加藤順子、棚橋利行、八幡和憲、吉田和弘. 5FU と Oxaliplatin の相乗効果における FANCI の寄与の検討. 第 24 回日本バイオセラピー学会学術集会総会、2011.12、和歌山.

(95) 山口和也、浅井竜一、安福至、徳丸剛久、櫻谷卓司、太和田昌宏、今井寿、斎藤史郎、佐々木義之、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘. 完全鏡視下胃切除術における再建の定型化. 第 24 回日本内視鏡外科学会総会、2011.12、大阪.

(96) 斎藤史郎、浅井竜一、安福至、徳丸剛久、櫻谷卓司、太和田昌宏、今井寿、佐々木義之、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘. 進行胃癌に対する腹腔鏡下幽門側切除術の検討. 第 24 回日本内視鏡外科学会総会、2011.12、大阪.

(97) Tsuburaya A, Yoshida K, Kobayashi M, Yoshino S, Takahashi M, Takiguchi N, Morita S, Oba K, Sakamoto J. Interim analysis of SAMIT Trial: Lesson from the sequential treatment. 第 84 回日本胃癌学会総会、2012. 2、大阪.

(98) 斎藤史郎、浅井竜一、安福至、

徳丸剛久、櫻谷卓司、太和田昌宏、今井 寿、佐々木義之、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、山口和也、長田真二、吉田和弘。腹腔鏡下幽門側胃切除術における D2 郭清。第 84 回日本胃癌学会総会、2012. 2、大阪。

(99) 山口和也、浅井竜一、安福 至、徳丸剛久、櫻谷卓司、太和田昌宏、今井 寿、斎藤史朗、佐々木義之、田中善宏、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘。パネルディスカッション 5 Stage IV 胃癌に対する化学療法後の胃切除。第 84 回日本胃癌学会総会、2012. 2、大阪。

(100) 太和田昌宏、八幡和憲、今井 寿、奥村直樹、高橋孝夫、山口和也、川口順敬、吉田和弘。胃癌における周囲リンパ管新生のメカニズム-治療への応用を目指して-。第 84 回日本胃癌学会総会、2012. 2、大阪。

(101) 中村公紀、岩橋 誠、中森幹人、中 禎二、尾島敏康、勝田将裕、飯田武、辻 俊明、早田啓治、松村修一、川井 学、谷 眞至、瀧藤克也、内山和久、山上裕機：Stage IV 胃癌に対する外科的切除の有用性。第 111 回日本外科学会学術集会、2011. 5、紙上開催。

(102) 飯田 武、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、中 禎二、尾島敏康、勝田将裕、辻 俊明、早田啓治、松村修一、川井 学、谷 眞至、瀧藤克也、内山和久、山上裕機：胃癌幽門側胃切除術後の予防的ドレーン、経鼻胃管留置は必要か。第 111 回日本外科学会学術集会、2011. 5、紙上開催。

(103) 尾島敏康、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、勝田将裕、飯田 武、辻 俊明、早田啓治、松村修一、内山和久、谷 眞至、川井 学、瀧藤克也、山上裕機：胃癌外科領域における同種血輸

血の影響。第 111 回日本外科学会学術集会、2011. 5、紙上開催。

(104) 辻 俊明、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、尾島敏康、勝田将裕、飯田武、早田啓二、松村修一、川井 学、谷 眞至、瀧藤克也、内山和久、山上裕機：審査腹腔鏡による胃癌腹膜播種診断と治療戦略策定への応用。第 111 回日本外科学会学術集会、2011. 5、紙上開催。

(105) 辻 俊明、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、尾島敏康、勝田将裕、飯田武、早田啓治、松村修一、山上裕機：腹腔鏡による胃癌腹膜播種診断の適応の妥当性の検討。第 66 回日本消化器外科学会総会、2011. 7、名古屋。

(106) 飯田 武、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、尾島敏康、勝田将裕、辻 俊明、早田啓治、松村修一、山上裕機：胃癌幽門側胃切除術後における予防的ドレーン留置の意義。第 66 回日本消化器外科学会総会、2011. 7、名古屋。

(107) 中村公紀、岩橋 誠、中森幹人、尾島敏康、勝田将裕、飯田 武、辻 俊明、松村修一、早田啓治、山上裕機：大動脈周囲リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前化学療法 (TS-1/CDDP) の有用性の検討。第 66 回日本消化器外科学会総会、2011. 7、名古屋。

(108) 松村修一、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、尾島敏康、飯田 武、勝田将裕、辻 俊明、早田啓治、北谷純也、山上裕機：高齢者に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討。第 66 回日本消化器外科学会総会、2011. 7、名古屋。

(109) 尾島敏康、岩橋 誠、中森幹人、中村公紀、勝田将裕、飯田 武、辻 俊明、早田啓治、松村修一、山上裕機：胃癌手術において肥満は術後合併症の

リスクになりうるか？第 66 回日本消化器外科学会総会、2011.7、名古屋.

(110) 尾島敏康, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 瀧藤克也, 勝田将裕, 飯田武, 辻 俊明, 早田啓治, 松村修一, 中 禎二, 山口俊介, 山上裕機: 早期胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における abdominal shape の影響. 第 49 回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.

(111) 飯田 武, 岩橋 誠, 勝田 将裕, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 辻 俊明, 早田啓治, 上田健太郎, 松村修一, 山上裕機: 胃癌腹腔洗浄液中における IL-17mRNA の発現解析. 第 19 回日本消化器関連学会週間、2011.10、福岡.

(112) 飯田 武, 岩橋 誠, 勝田 将裕, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 辻 俊明, 早田啓治, 上田健太郎, 山上裕機: Prognostic significance of IL-17 mRNA expression in peritoneal lavage detected by real-time RT-PCR in gastric cancer. 第 70 回日本癌学会総会、2011.10、名古屋.

(113) 辻 俊明, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 勝田将裕, 飯田武, 山口俊介, 内山和久, 瀧藤克也, 谷 眞至, 川井 学, 山上裕機: 胃癌腹膜播種高危険群に対する治療戦略とその成績. 第 49 回日本癌治療学会学術集会、2011.10、名古屋.

(114) 飯田 武, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 勝田将裕, 辻 俊明, 早田啓治, 松村修一, 山口俊介, 川井 学, 谷 眞至, 瀧藤克也, 内山和久, 山上裕機: 標準的リンパ節郭清を伴う胃癌幽門側胃切除術に予防的ドレーンは必要か. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011.11、東京.

(115) 辻 俊明, 岩橋 誠, 中森幹人,

中村公紀, 尾島敏康, 勝田将裕, 飯田武, 山口俊介, 内山和久, 瀧藤克也, 谷 眞至, 川井 学, 山上裕機: 術前 EUS 微量腹水陽性による腹膜播種診断における患者因子による影響の検討. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011.11、東京.

(116) 尾島敏康, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 勝田将裕, 飯田 武, 辻 俊明, 早田啓治, 谷 眞至, 川井 学, 堀田 司, 山上裕機: 残胃癌根治切除を可能にする腫瘍因子, 患者背景因子. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011.11、東京.

(117) 飯田 武, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 勝田将裕, 辻 俊明, 早田啓治, 山口俊介, 瀧藤克也, 山上裕機: 胃癌腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における予防的ドレーン留置の意義. 第 24 回日本内視鏡外科学会総会、2011.12、大阪.

(118) 尾島敏康, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 中 禎二, 勝田将裕, 飯田武, 辻 俊明, 早田啓治, 松村修一, 上田健太郎, 山上裕機: 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における abdominal shape の影響. 第 24 回日本内視鏡外科学会総会、2011.12、大阪.

(119) 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 飯田 武, 勝田将裕, 辻 俊明, 早田啓治, 山口俊介, 山上裕機: 腹腔鏡下胃切除における経口アンビル (OrVilTM) の安全・簡便な挿入法. 第 24 回日本内視鏡外科学会総会、2011.12、大阪.

(120) 飯田 武, 岩橋 誠, 勝田 将裕, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 辻 俊明, 早田啓治, 上田健太郎, 松村修一, 山上裕機: 胃癌腹腔洗浄液中における IL-17mRNA の発現解析. 第 84 回日本胃



癌学会総会、2012.2、大阪。

(121) 尾島敏康, 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 勝田将裕, 飯田 武, 辻 俊明, 早田啓治, 松村修一, 山口俊介, 山上裕機: 胃癌手術における肥満の影響—開腹手術, 腹腔鏡手術別の解析—. 第 84 回日本胃癌学会総会、2012.2、大阪。

(122) 中村公紀, 岩橋 誠, 瀧藤 克也, 中森幹人, 尾島敏康, 勝田将裕, 飯田 武, 辻俊明, 山口俊介, 山上裕機: 早期胃癌 ESD 適応外病変の治療と予後. 第 84 回日本胃癌学会総会、2012.2、大阪。

(123) 岩橋 誠, 中森幹人, 中村公紀, 尾島敏康, 飯田 武, 勝田将裕, 辻 俊明, 早田啓治, 山上裕機: 高度進行胃癌に対する化学療法著効例における手術介入の意義. 第 84 回日本胃癌学会総会、2012.2、大阪。

(124) 尾島敏康, 瀧藤克也, 中村公紀, 岩橋 誠, 中森幹人, 勝田将裕, 飯田 武, 辻 俊明, 山上裕機: 胃 ESD 後に発症する emergency な合併症の解析. 第 48 回日本腹部救急医学会、2012.3、石川。

(125) 浜本康夫, 宮本洵子, 西智弘, 割田悦子, 山中康弘, 小林望, 五十嵐誠治, 稲田高男: トラスツマブ療法で CR が得られたスキルス胃癌の 1 例、第 83 回日本胃癌学会総会、2012.3、青森。

(126) 白川博文, 稲田高男, 松下尚之, 尾澤巖, 菱沼正一, 清水秀昭: 胃全摘術に伴う脾臓合併切除の功罪. 第 83 回日本胃癌学会総会、2012.3、青森。

(127) 白川博文, 稲田高男, 松下尚之: 腹腔内洗浄細胞診陽性による StageIV 胃癌切除例の予後の検討、誌上发表、第 111 回日本外科学会総会、2011.5、誌上開催。

(128) 野村 尚, 福島紀雅, 川村一郎, 菅原秀一郎, 飯澤 肇: 4 型胃癌に対する治療法の検討. 第 66 回日本消化器外科学会総会、2011.7、名古屋。

(129) 川村一郎, 野村 尚, 大久保龍二, 佐藤好宏, 山岸岳人, 福島紀雅, 飯澤肇: 腹膜播種を伴う胃癌における肉眼的根治切除の意義. 第 73 回日本臨床外科学会総会、2011.11、東京。

(130) 徳永正則, 谷澤豊, 坂東悦郎, 川村泰一, 寺島雅典: 手術手技の継承—教わり上手になるために—. 第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。

(131) 谷澤豊, 坂東悦郎, 徳永正則, 川村泰一, 近藤潤也, 上坂克彦, 金本秀行, 絹笠祐介, 安井博史, 寺島雅典: CY 陽性胃癌は D2 郭清を行い, R1 切除を目指すべきである. 第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。

(132) 寺島雅典, 徳永正則, 谷澤豊, 坂東悦郎, 川村泰一, 近藤潤也, 絹笠祐介, 金本秀行, 上坂克彦: 進行胃癌に対する大網盲嚢切除の実際. 第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。

(133) 茂木陽子, 寺島雅典, 近藤潤也, 徳永正則, 谷澤豊, 坂東悦郎, 川村泰一, 絹笠祐介, 金本秀行, 上坂克彦: 術前診断からみた上部胃癌に対する脾摘の適応に関する検討. 第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。

(134) 三木友一朗, 徳永正則, 谷澤豊, 坂東悦郎, 川村泰一, 絹笠祐介, 金本秀行, 上坂克彦, 寺島雅典: Clavien-Dindo 分類を用いた胃全摘後膵液漏重症化リスク因子についての検討. 第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。

(135) 川村泰一, 徳永正則, 谷澤豊, 坂東悦郎, 近藤潤也, 大島令子, 杉沢徳彦, 茂木陽子, 三木友一朗, 山川雄士、

- 幕内梨恵、寺島雅典：胃切後残胃が小さい症例に対する Billroth-I 再建の功罪。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (136) 近藤潤也、徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：進行胃癌に対する審査腹腔鏡検査の注意点。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (137) 山川雄士、谷澤豊、坂東悦郎、川村泰一、徳永正則、絹笠祐介、上坂克彦、金本秀行、小野裕之、寺島雅典：ESD 後に VM 陽性を理由に追加外科切除を施行した胃切除例の至適リンパ節郭清。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (138) 大島令子、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、坂東悦郎、小野裕之、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡補助下内視鏡全層切除術。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (139) 坂東悦郎、茂木陽子、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：胃癌取扱い規約第 14 版における cN の検討。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (140) 徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：食道胃接合部癌における第 7 版 TNM 分類の妥当性。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (141) 幕内梨恵、坂東悦郎、三木友一朗、山川雄士、大島令子、杉沢徳彦、瀧雄介、茂木陽子、近藤潤也、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：術前評価からみた食道胃接合部癌の予後因子に関する検討。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (142) 坂東悦郎、近藤潤也、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：StageIV 胃癌の集学的治療の成績と治療戦略の展望。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (143) 瀧雄介、徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：非治癒因子を有する経口摂取不能胃癌に対する外科治療の意義：術後経口摂取可能期間の観点から。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (144) 川村泰一、徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、茂木陽子、近藤潤也、幕内梨恵、三木友一朗、山川雄士、杉沢徳彦、大島令子、寺島雅典：高齢者胃癌に対する治療方針の検討。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (145) 杉沢徳彦、坂東悦郎、寺島雅典、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、田中雅樹、角嶋直美、滝沢耕平、小野裕之、中島孝、町田望、山崎健太郎、福富晃、安井博史：高分化型管状腺癌 ESD 後再発で認めた胃小細胞癌の一例。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (146) 高柳智保、坂東悦郎、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典：胃原発絨毛癌 3 例の経験。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (147) 別宮絵美真、谷澤豊、三木友一朗、徳永正則、坂東悦郎、川村泰一、寺島雅典、庭川要、伊藤以知郎、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦：右副腎皮質癌術後、左副腎及び胃転移をきたした 1 例。第 83 回日本胃癌学会総会、2011.3、三沢。
- (148) 坂東悦郎、茂木陽子、近藤潤也、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、寺島